

第2回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成27年10月20日（火）午後6時30分～午後8時10分まで

2. 場 所 桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

【委員】 委員長：	桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
副委員長：	桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
委 員：	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
	新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
	桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
	桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
	群馬県桐生みどり振興局 局長	飯島 泉
	群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
	桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	北風 久子
	桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
	足利銀行 桐生支店長	松村 貢
	群馬銀行 桐生支店長	横山 勝則
	桐生公共職業安定所 所長	橋本 真実
	桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
	きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市医師会 理事	太田 裕穂
	桐生青年会議所 理事長	朝倉 康行
	桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
	桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫
	2015年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
(欠席者)	桐生市PTA連絡協議会 副会長	長 由紀子

【桐生市】	桐生市長	亀山 豊文
	桐生市副市長	鳥井 英雄
(事務局)	桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
	桐生市総合政策部企画課人口対策室長	六本木 和敏
	桐生市総合政策部企画課環境都市推進係長	金子 英雄
	桐生市総合政策部企画課人口対策室主任	竹ヶ原 大輔

【傍聴者】 1名
【報道機関】 2社

4. 議 題

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題

(1) (仮称) 桐生市人口ビジョン原案及び人口の将来展望 (目標人口) について

原案の骨子からの変更点及び原案の考え方

目標人口の設定

(2) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案について

原案における取りまとめ及び考え方

- 4 その他
- 5 閉会

5. 議事の概要

(開始：午後6時30分)

1 開会

〈和佐田企画課長〉

本日は、長委員より御欠席の連絡をいただいているが、本日の出席委員数は過半数に達していることから、委員会が成立していることを報告する。

2 あいさつ

〈委員長〉

皆様こんばんは。この委員会は非常に重要な使命を帯びている。我々の住んでいる桐生市にとって、楽しい将来の展望が描けるか、そういった街にできるかできないか、今が最後のチャンスなのではないかというくらい重要なものだと考えている。

皆様には、忌憚のない御意見をお願いしたい。

3 議事

委員長が議事を進行。

(1) (仮称) 桐生市人口ビジョン原案及び人口の将来展望 (目標人口) について

〈事務局説明〉

事務局より、資料1「(仮称) 桐生市人口ビジョン原案」及び資料2「早見表」について説明。

〈委員長〉

今後の目標人口をどういったところに掲げるかが論点になる。原案には人口推計のパターンが4つあるが、こういったものを参考にして皆様から御意見をいただいて、本日ここで決めていきたいということであったが、いかがか。

〈委員〉

人口ビジョンということで、出生率をどうするのかは、ここでいくら話しても結論は出ないと思う。

桐生らしさ、桐生の良さを認識し磨いていくことを考えてほしい。良い町ができて、その結果人口が増えるというストーリーを描くべきではないか。国は50年後、人口1億人と想定している。だとすれば桐生は日本の1000分の1。0.1%の規模なので、国と同じ率で10万人と想定し、後は施策の結果で決まってくるという捉え方で良いのではないか。出生率だけでなく、桐生が良くなれば人は外から移動してくる。人口増ありきの話ではなく、総合戦略は桐生らしさをいかに打ち出していくかが重要になるのではないかと考えている。個人的な意見ではあるが、桐生の良さを延ばすことを考えてほしい。

県の総合戦略にも参加したが、県のアンケートではその地域の特筆する良さ、特徴は何かと聞いている。県の施策の作り方の方が、的を得ている気がする。

〈事務局〉

将来人口の設定ということで、確かに人口ありきという話にはなるが、国の策定の手引きに基づき、人口と施策はお互いに対になって積み上げていくものであると考えている。例えば、将来人口を10万人に設定したならば、それに対する出生率、移動率を目標として設定することになる。2040年に10万人を目標として設定した場合、出生率が例えば3.0というような率もありえる。

今いただいた考えは、まずは推計を示しておいて、それにプラス目標値ということで、施策を積み上げていくという考え方である。

〈委員長〉

目標は中々決めにくい。その数字が先にあって、施策がその後というのもおかしい話だとは思う。もちろん事務局が言うように、その数字がないと他が決まらないというものもあるとは思う。

ただ、我々としては本来どのような魅力的な施策を提案できるかが重要であり、その結果人口が増えるというのが望ましいと思う。そういう風に考えると、どのパターンが良いと思われるのか。

〈事務局〉

社会保障人口問題研究所（以下：社人研）が推計した、2020年にかけて移動率を2分の1に縮小するというパターンをベースに、プラスアルファでどれだけ出生率の低下や移動率に歯止めをかけられるか、という考え方ではどうか。

〈委員〉

人口ビジョンは作らなければいけないのか。他の自治体も同じ事をしているので、どのパターンを選ぶかというだけの違いではないのか。

〈事務局〉

資料 2 はあくまで例として示しているだけなので、これに捉われる必要はない。例えば太田市については、今よりも出生率を上昇させるという報道がされている。まとめ方が同じというだけで、その街によって将来人口の目標値は違ってくる。

〈鳥井副市長〉

合計特殊出生率については桐生市の数値はもともと低いですが、例えばそれを 1.80 まで上げられるか、国の設定する 2.07 まで持っていけるかを考える必要がある。

社会増減についても、こういった形でマイナス部分に歯止めをかけるか。目標の目安として、今の減少数を考えた時に半分程度に抑えるのか、あるいはプラスマイナスを均衡させるのか、いつまでの目標として考えるのかをある程度念頭においていただくと、概ね 2040 年には何人、2060 年には何人というような形での数値は出てくる。国の考え方は、そうした数値目標が全国的に集まって 1 億人という話が出ているのだと思う。国の総合戦略の手引きでは、まずは最初に人口ビジョンを作り、目標数値に近づけるためにはどういう施策をしていったらいいのか、という流れが示されている。そういうことで本日は、まずは人口の目標設定を御議論いただいてから、総合戦略の中身に移るということで考えている。

〈委員〉

パターン 1 における移動率が、パターン 3-2 にある「均衡」という状態になった場合の数値は計算しているか。

〈事務局〉

現状その数値は無いが、計算すれば出すことができる。縮小率をもう少し縮めていくということか。

〈委員〉

国が 50 年後に 1 億人を目指すとするなら、同じ率で目標を掲げ、いかに実際の移動率、出生率の差を埋めていくのかが総合戦略の意味ではないのか。先ほどの全国の平均値を集めて 1 億人を目指すすれば、我々はあえてその下を目指すべきなのか。せめて国と同じくらいの目標は掲げて、それに近づけるための施策を考えるべきではないだろうか。多ければいいというものではないので、一概には言えないが。

〈委員長〉

単なる努力目標では良くない。到底無理だろうというところから始まってしまうのもどうかと思う。

〈委員〉

パターン 1 が、地方消滅にあるような人口の推計機関が出した数字になるのか。

〈事務局〉

パターン 2 が、日本創生会議が出した数字となる。

〈委員〉

であれば、パターン 2 は当然目標には成り得ない。目標としては少なくともパターン 1、もしくはパターン 3-2 にしないことには、この会議の意味がない。

〈鳥井副市長〉

例えばパターン 3-1 を選んだとして、桐生市の直近の出生率が 1.33、それを 2020 年までに 1.60 まで上げられるかといえ、それも現実的ではない。例えば 2030 年までに 1.60 にするという目標を定め、2040 年は 1.80 にするというのも一つの考え方である。それで何人くらいになるかを計算して、それを目標人口として決めていただくのもいいかと思う。

〈委員〉

国の目標でも、一度落ちてから上がっていくことになっている。これから子育て日本一を目指していろいろな施策を打ち、移動を減少させ出生率を上げる。

〈委員長〉

今の副市長のお話が比較的良かったと思う。2020 年ではなく 2030 年に 1.60、2040 年に 1.80 でもう一度計算をしていただいて、それを目標として定めるということではいかがか。

【委員了承】

| | |-----------------------------------| | (2) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案について | |-----------------------------------|

〈事務局説明〉

事務局より、資料 3「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案」及び資料 4「総合戦略推進委員による意見・提言のまとめ」について説明。

〈委員〉

5 ページで、具体的施策の項目だけ見ると総花的である。どこでも当たり前の項目が並んでいる。例えばこの委員会で、ある部分について外すようなことをしてはいけないのか。若しくはここに無いことを入れてもいいのか、確認したい。

〈事務局〉

全く問題ない。現在のものはあくまでも原案として事務局でまとめたものであるもので、今載っていないものも、これから盛り込むことは可能である。

〈委員〉

これをやるにはどうするのが重要である。例えば、6 ページの企業誘致をやるにはどうしたら良いかというのを、皆で知恵を絞ってアイデアを出してやるというのが本当は一番重要なことである。

〈事務局〉

総合戦略は、5年間の全ての実施事業の積み重ねというものではないと考える。現時点で、5年間でやるべき事業を全て取り上げて総合戦略に掲載することは難しいが、どこまでやるのか決まっているものは掲載していいと思う。全ての項目において掲載するのは難しいので、こういう方向性で進んでいくということで、現時点では方向性を示すに留めている。

〈委員〉

市として独自色を出すには、この戦略に出すことになるのか。企業誘致や新たな仕事形態の創出は、桐生市だったら何をやるのか、何が得意なのか、何が一番向いているのかということを議論して掲載するのが一番重要だが、時間が無いから出来ないと思う。3月までに出不さなければならないとすると、盛り込むのは厳しい。

何が言いたいかというと、これをやるためには、この分野に知見を持っている人たちを集めて議論しなければ、ここには上げられないと思うということ。全ての項目をこのメンバーで議論するのは無理ではないか。例えば新たな仕事形態の創出だったら、そこに色々なアイデアを持っている人を集めて、そこで議論して上げてもらわないと、総花的になってしまうのではないか。

〈亀山市長〉

総合戦略に内容を盛り込んでそれを実践していく中で、今お話いただいたような戦略的なこと、具体的な行動を実施してゆくことは可能である。

〈委員〉

まず、総合戦略というものを作って、具体的にやるためのアイデアを出して、桐生市はこうやっていきましょうと盛り込んでいくことができるのか。

〈事務局〉

そうするために、総合戦略に方向性を盛り込み、目指すところやそのための取組が、総合戦略に基づいているということを示すことができるようにしておかなければならない。

〈亀山市長〉

今回のこの委員会で、委員の皆さんが考える桐生の特色というものを出示していただいて、それを協議していただいて総合戦略に載せる内容を決める。実際に総合戦略ができ上がった時点で行動を起こすためには、色々な会議を設けたりしていく必要があると思う。

〈委員長〉

実行計画のときに会議は必要となる。ただ、桐生の総合戦略として提出する時についても、桐生の特色や魅力が散りばめられて、国にもそう見えるようなものにしていけないといけな。短期間かもしれないが、今の時点で思いついたこと、桐生市の特色、魅力を総合戦略に多く盛り込んでいき、桐生ならではの総合戦略にしてゆきたい。

その実行計画については、この1～2か月で全部やれるというものではないと思う。環境先進都市推

進協議会の部分でも、先ほど指摘があったプロジェクトチーム的な部分は、何人かでチームを作り今後進めていってはどうかという意見が上がっている。

〈委員〉

桐生の優れた特性や魅力を踏まえた上で、例えば仕事を増やすために何をすれば良いかなどについて、共通認識を持つことで意見もまとまるだろうから、事務局としてどう考えているか、お聞かせいただきたい。

〈事務局〉

皆様から桐生の特徴ということで、例えば桐生は7割を山林が占めていること、歴史伝統文化、水財産、8つある高校など、そういったものを活かしたらどうかという御提案をいただいた。そういった中で、例えば仕事作りの分野で、林業の活性化ということでストックヤードの整備をまずは手掛けて、桐生の特徴である木材を活かした取組を新たに始めようと。このようにいただいた御意見を活用させていただいた。

〈鳥井副市長〉

一般の方でもパッと思い浮かぶ特徴をいくつも並列的に並べて、その中から活かせる特長を考えていただくのが一番良い切り口だと思う。森林や水源が街中から近いところにあるというのが一つの特性であり、また、中小企業が多く、様々なものづくり技術があるというのも一つの特性だと思う。学校が多いということで学園都市、あるいは教育都市という側面を有した街であり、首都圏から100キロ圏内で尚且つ災害が少ないなど、いくつもこの地域の特性を言い表すことはできると思う。

その中で、どれとどれを組み合わせるとどんな施策を実施したら、本当に桐生らしくていい取組が出来るのかをお考えいただくというのが、一つの考え方になると思う。

〈委員〉

そこを明確にし、その中でプライオリティを行政や執行部が付けていけば良いと思う。

〈亀山市長〉

今まで色々な会議の中で、あまりにもこちらから全てを出して進めると、押し付けではないかと言われることもあったので、今回は行政の押し付けにならないように、こういう委員会の形をとった。とりあえず今は総花的であるかもしれないが、今後煮詰めてゆく形で進めていくのがいいと思う。

桐生の歴史文化、自然を活かした桐生の特色を出していくという意味では、山林、水源、そしてものづくりで歴史を作ってきた街であるから、群馬大学理工学部とどう連携をしてもものづくりの街にしていけるのか。桐生にはこれだけの高校が現在あり、昼間人口を他から呼び寄せることもできるので、高校生、群馬大学理工学部にいる大学生の人数をいかにこれから維持しながら、それを生かしたまちづくりをどのようにしていくかというのが出てくると思うので、そういう部分も皆さんで議論していただけるとありがたいと思う。

〈委員長〉

副市長がおっしゃった桐生市の特徴を、多分ここにおられる方は皆その通りだと思って聞いていると思う。ただ、そのキーワードが現在の時点で総合戦略に出てきていない。そのため、場合によっては最初の施策の体系のところはそのキーワードが出てくると、まさに桐生独特の案になると思う。キーワードがもっと前面に出てこない、総花的になってしまう。

〈委員〉

桐生市とみどり市の区域で見ると人口減は相殺されてくることもあると思う。桐生の減少分が隣のみどり市に流れている。そこについて、社会減が起きてきた原因を把握する必要がある。みどり市は笠懸町で人口が増えているが、かなりの部分が桐生から来ている。桐生市は人も出て、企業も本社を移転して出て行っている。なぜそういうことが起きるのかを把握し、桐生市みどり市圏域で何が将来的に必要なのか考えていかないと、お互いに広い展望は出てこない。桐生が何故他の市と比べて人口減が加速しているのか、本質的な分析が欠けているという気がする。

一次二次産業が衰退したが、地方はここがしっかりしないと成り立たない。農業の六次元化を言われているが、六次元化というのは過去に分業で細分化され残ったのが農業などの第一次産業であって、企業努力でそれなりの成果が出るとそれは独立した企業となる。こういう時代になって新たに捉え直すというのは大事なことであり、6次産業化は新たに取り組むべきテーマとなった。

林業に対してもその資源をどのように活用してゆくのか。活用するに当たって方向はあると思うが、本日は表面的な数値の議論になっているので、この地域の発展のためにも本質的な問題を考えてほしい。

〈委員長〉

先ほどの目標人口の移動減を具体的な施策にするために原因究明し、流出の原因を具体的な施策に反映できればと思う。

〈委員〉

先ほど昼間人口の問題が出ていたが、購買力の低下、店舗面積あたりの売上高、これは桐生が縮小し、その分が他に流れている。表の数字を見るだけでなく、それを作っている裏の部分を読んでいかないと具体的な動きに反映されない。

〈委員〉

アンケートの単純集計結果から、桐生が評価されているところを整理してみたい。例えば、夜間人口の方が多いいということは、桐生市を住む場所として選定している人が多いということになる。これから先、一つの市で自己完結する都市を目指すのはほぼ不可能だと思うが、例えば桐生を住む街にして、仕事場は工業が盛んな隣の太田市なら、太田市への通勤が便利になればいい話なので、どこの街でもやれるような計画にならないためには、そういう形でうまく桐生の長所を伸ばすような計画を立ててみることを考えるのも一つかと思う。ダメなところを伸ばすより良い所をのばすなど、極端かもしれないが、そういう考え方が必要なのではないか。

〈委員長〉

賛成である。桐生にどんどん取り込む施策も入れつつ、ここに住んでもらうことが大事。

ただそれをやるには、昼間、外に働きに出ていくためのアクセスの整備が必要になる。そこ時間がかかれば、職場のあるところに住んだ方が良いということになりかねない。桐生は住んでみると非常に良いところなので、昼間は働きに外に出て行ったとしても、この辺の住民を増やすように取り組んでゆくのがよいと思う。

〈亀山市長〉

現在、国に先駆けて、人口減少に歯止めをかけるべく住宅取得応援事業をやっている。昨年の7月から3月31日までに170件の申請があり、そのうち市外から桐生に入ってきていただいたのはおよそ40件であった。将来的には住宅都市や環境先進都市のような形で、住みやすさというものを活かした総合戦略が必要になってくると思う。

〈委員長〉

桐生の良さをもっと活かす。今でも十分住みやすいところであるが、それを更に伸ばしていくことが重要だと思う。

〈委員〉

なぜ、桐生から人口が流出したかがヒントになる。みどり市の場合、笠懸、大間々、勢多東地区は減少の意味合いが違うが、それぞれの地域にあった対策をしていくことになっている。桐生もそれと同じ状況ではないかと思う。桐生市でも渡良瀬川、桐生川の外側内側で違いがある。旧桐生市街は現在3万人を切り、おおよそ7万人が相生、川内、広沢の郊外に住んでいる。そのほか新里、黒保根が2万人。桐生の中でも、旧市街から郊外に移っている。さらに郊外でも飲み込めなかった人口が笠懸や赤堀に流れている。その流れを変えることが重要になると思う。

〈委員〉

流れを変えという話になったが、人の流れなど、桐生は織物の街として栄えていったときと逆の現象が起こっている。10万人の人口があるなら、ある程度自己完結できる体制があるべきかと思う。桐生は観光などに力を入れており、色んな形で市民活動が盛んな点など良さがたくさんあるが、織物産業や本町の町並みにこだわり過ぎて、周辺に広がることについての受け皿づくりができなかったように思われる。桐生として消化できない部分が、笠懸や他のところに流れていったと思う。

仕事をどうするのか、住む街としてどうするのか、教育文化をどうするのかなど考えていくことで、桐生市が持っている文化的な力が生きてくるのではないかな。市民運動が盛んであり、そのエネルギーがまちづくりのエネルギーになってくると思う。良い所は一杯ある。

桐生市がしっかり方向性をもって、環境先進都市などの施策に力を入れて、地域の中で先進的な企業を支援する、新しい起業を支援するといった総合的な施策を打ち立てていかなければならない。仕事を中心としながら住む環境を整えれば、桐生市に住みたくなる人が増えるのではないかなと思う。

〈委員〉

確認させていただきたいが、この委員会は第三者委員会で、ここでの意見が総合戦略に盛り込まれるということではないのか。ここで我々がどんどん意見を出すことで、事務局としてはどんどん盛り込むことができるということだと思う。項目ごとに我々が取捨選択について意見を出せば出しただけ、盛り込まれる可能性が高くなる。ここで協議したことが最終案として策定されるということになるのであれば、桐生市をどんな街にしたいのか市長さんのお考えもお聞きしたい。それに沿って我々は意見を出したい。折角集まっているのだから、一人一人の意見を出していただくのを、事務局がどんどん受け止めていただいて、そういったことがどれだけこの形に出てくるのかということだと思う。今の時点では国の示した手順のとおりという気がする。原案にわれわれの意見が反映されているように見えないが、僕らがどんどん意見を出して、盛り込んでいかななくてはならない。あと何回かしか無いのだから。項目について、押すところと引くところを明確にすることによろしいのか。

〈亀山市長〉

その通りだと思う。我々が全部出してしまうと、皆さんに集まっていた意味がない。これはあくまでも叩き台。押すところと引くところをどうするかといった御意見を、どんどん交わしていただきたい。

〈委員〉

各市町村が総合戦略を作っているので、特色があるというのは結果としてはいいのだが、無視できないのは地域間競争である。同じ取組でも、他の市がより良い条件を出したら、そちらが選ばれるかもしれない。それを考えた視点も必要になってくると思われる。

〈委員〉

国は総合戦略の中で、モデルとなる地区をいくつかピックアップして公表している。モデルとなるような総合戦略を出せば当然注目される。

〈委員〉

4 ページ、5 ページは国の基本目標をなぞっているだけではないか。第一回目の委員会のコンセンサスは桐生に特化することであり、選択と集中ではなかったのか。国にならったような形となっており、4 つの方針の中で桐生がどれに特化するのか、コンセンサスが全く反映されていない。

〈事務局〉

国の総合戦略を踏まえるのが前提となるため、国が示した 4 つの基本目標を無視するということとはできない。それを踏まえた上で、桐生の特徴が出せればと考えている。

〈委員長〉

市長も先ほどお話されたとおり、市の方針はあえて出していない。市民の意見を尊重することになっている。どれに特化するのかここで協議されれば、その方向に行くことになる。

〈委員〉

桐生に憧れを持っている人がいる。その中で、車を持たずに子どもを育てながら、自転車で暮らせるか挑戦してみたいという人もいる。若い人が動けるような環境があることも桐生らしさとなる。まだ繊維の街、ものづくりの街という桐生市のブランドに憧れる人がいるということが、総合戦略に出ても良いのではないかなと思う。

佐野、足利から多くの人が桐生に来ている。近いところの人を取り込んで何かを見つけてもらえれば良い。桐生のものづくりを全体の一部に盛り込んで、桐生らしさを見えるようにしたい。

〈委員〉

在宅就業、クラウドソーシングを活用して東京の仕事を請けるといった個人事業主として自由に働ける働き方が広まっている。子供がいて働けない女性に、桐生では新しい働き方や先進モデルを作っていくことができるようにしたい。

〈委員〉

6 ページ、10 ページに林業の活性化が出ているが、現在林業は担い手がいない状態。雇用創出については、ハローワークにも募集をかけて人材の確保をしようかとしているところである。

桐生市、当組合、国の森林総合研究所で山林火災の跡を 100 年かけて復旧するという計画もあり、今後 100 年は仕事がある状態。林業と、例えば街中の仕事を絡めて桐生らしさを出してもらえれば、桐生も盛り上がってくるのではないかな。雇用創出や定住者増など。群馬県の緑の県民税や国の森林・林業再生プランなど、そういった追い風を使い、森林整備をしながら雇用も創出してゆきたいと思っているので、林業を取組として載せてもらって良かったと思う。

〈委員〉

ものやお金を増やすことで解決していくのではなく、桐生は違う方向を考えても良いのではないかな。150 年前の人口は今よりも少なかった。お金がなくても住めるまちにするような、お金の使い方を変える施策を考えても良いのではないかな。

〈委員〉

人口は同じでも、過去とは人口構成が違い、高齢化している中でそれは難しいと思う。

住みやすさランキングは県内 12 市の中で最下位、全国でも下のほうに位置している。これはどういう基準で計っているのか、違う基準で計れば桐生は上位に入るのではないかな。

〈亀山市長〉

数値的な指標は基準によって全く異なる。田舎暮らしという本では、3 年くらい上位に位置している。ただ一般の人が見たときに、桐生市は住みにくいというイメージは払拭しなければならないので、調査をしなければならないと思っている。

〈鳥井副市長〉

ランキングが低い原因は大規模小売店舗の割合が大きい。大規模小売店舗の面積を市町村人口で割り、

どの程度の面積があるか。そうすると桐生は非常に少なく、隣接する市には多い。桐生市民も近隣の大型小売店舗に買い物に出る。その大規模小売店舗の売上高も、桐生ではなくその市の人口で割っているので、一人当たりの購買力が非常に高い裕福な町となる。逆に桐生は購買力が低くなる。そのあたりがこのランキングのウェイトの4割くらいを占めている。それ以外にも高齢化率が高い、人口減少傾向が続いているなどの部分が大きなウェイトになっている。医療面やその他の項目では、高位に位置するものもあるが、大きなウェイトを占めているのは今上げた3点くらいになっている。

〈委員長〉

総合戦略を国へ提出して認められた場合に、これをやれるだけの予算はあるのか。

〈事務局〉

残念ながら、財源の期待はできない。地方創生の先行型基礎交付分1,400億円、プラスアルファで300億円、合計1,700億円であった。今回の新型交付金ではそれ以上の額を期待していたが、現段階では1,080億円という規模で、先行型よりも下まわり、さらに2分の1を各自治体で負担することとなる。

〈委員長〉

そういうこともあり、各委員から重点的な意見を伺いたい。第3回目は、委員の方々から追加や削除といった意見をもらいたい。

全部はできないので、優先順位を付けていかなければならない。

〈委員〉

地方創生の新型交付金は1,080億円とのことだが、他にも「まちひとしごと創生事業費」で一兆円。そのほか総合戦略を踏まえた個別政策など7,763億円など、当初の1,080億とは違う予算があるようなので、研究する必要がある。

〈鳥井副市長〉

この件に関しては、これまでの既存事業の看板を掛け替えて地方創生予算として再編したものである。純然たる新型交付金は1,080億円が財源として確保されているだけで、2分の1は地方負担で、事業費ベース2,160億円が、来年度の事業として見込めるだろうというのが国の目算である。

〈委員長〉

この総合戦略は市の方向性を決めることであり、いろいろな項目が入っていて良いが、財源が確保できない以上、全部を実行できないので、もっと項目を絞らなければならない。次回の11月16日までにいろいろな意見をいただきたい。基本目標の書き方が当たり前なので、桐生らしさを入れていきたい。今回はトップダウンではなく、市民レベルで決めていくんだという大きな方向転換になっている。我々も意見を出し、表現についても桐生らしさが分かるもので印象を変えてゆきたい。皆さんからの意見でまとまらなくなる可能性もあるかもしれないが、そこはこの委員会の中で協議をして、皆さんの合意を得て進めて行きたいと思う。桐生らしさとしてどういうところに重点を置くか、皆様の意見をお出しいただきたいと思う。

〈亀山市長〉

先ほど言われたように、4 ページ、5 ページの基本目標と施策の方向性についても特色を出してゆきたい。例えば 5 ページの基本目標「地域の資源を生かした魅力ある雇用を創出する」には施策の方向性が 1～5 あるが、削除して良い部分、これにプラスしたい部分など、項目を足し引きしてゆくことがあっても良いのではないか。そういう風に一つ一つ皆さんがチェックをして、我々に回答していただいて、それをまた次の委員会で出すなど、そのように進めていってはどうか。

〈委員長〉

各委員にはそのようにお願いしたいと思う。大胆にやっていただいていいと思う。現時点では全部実行する予算は期待できないので、そういう形で意見を集約して、次回でまとめるということではどうか。

〈事務局〉

その意見を次の委員会で示すという考えで良いのか。事務局の方でまとめて盛り込むのではなく、その意見を集約して、委員会で取り扱いをご協議いただくということで良いのか。

〈委員長〉

その形でいいと思う。この案に対して、この場には様々な方が集まっているので、そういう方々の意見が反映されたものにしていきたいと思っている。

〈委員〉

アンケート集計の中の重点的に取り組んでほしいことについて、商店街の活性化、子育て環境の充実といった意見のウェイトが大きいので、こうした意見を踏まえて考えていただきたい。

〈鳥井副市長〉

これから後日、御意見をお出しいただくのに、出しやすい形を設けて皆様に御連絡する。

先ほど市長が申し上げた、5 ページの施策に対する御意見、それから 6 ページ以降細分化された施策が載っているが、こういう部分でもいる、いらないなども含めて御意見をいただきたいと思っている。

本日資料としてお渡しした資料の中で「総合戦略推進委員による意見提言のまとめ」に、例えば目標 1 の (1) については既にこれだけの御意見をいただいている。見直しをする中で、この提案いただいた御意見と戦略の原案を見比べて意見をしていただくと、我々も整理がしやすくなる。是非ともよろしくお願いしたい。

〈委員長〉

そのように意見集約を進めてゆきたいと思う。よろしくお願いしたい。

4 その他

〈事務局 和佐田企画課長〉

○推進委員会の開催日程について説明。第 3 回委員会は 11 月 16 日（月）午後 6 時 30 分から、第 4 回委員会は 12 月 11 日（金）午後 6 時 30 分から、共に市役所での開催を予定。

○次回は今月実施したパブリックコメント、桐生市議会全員協議会でいただいた御意見等を配布させていただきます、皆様の御意見をいただくことになる。

5 閉会

〈事務局 和佐田企画課長〉

(終了：午後8時10分)